

科目名	マルチメジャー							年度	2024
英語科目名	Multi-major							学期	通年
学科・学年	音響芸術科 1年次	必／選	選	時間数	15	単位数	1	種別※	講義
担当教員	柴徳昭・ほか	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン・エンジニア・プロデューサー		
【科目の目的】 専門分野を理解し、学際的な学びの意味を認識する。専門分野外の音楽実技やスタッフワークを実際の現場で経験し、知識を得る。学んだことを学校の実習や将来の現場で活かすために、複合的な視座を身につける。自身が選択しているコースや専攻以外にも広範な知識を習得する。									
【科目の概要】 自分が選択している専攻・コース以外に、幅広く学びます。									
【到達目標】 A. 専門分野の範囲を把握し、学際的な学びの意義を知る。 B. 専門分野の範囲外の色々なジャンルの音楽実技または音楽スタッフワークを現場で体験し知見を得る。 C. 学んだことを学校の実習や将来の現場で生かす複合的な視座を体得する。									
【授業の注意点】 学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視しキャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう				レベル1 要努力			
到達目標 A	専門分野の範囲を把握し、学際的な学びの意義を知る	専門分野の範囲を把握している				到達目標Aについてさらなる努力が必要			
到達目標 B	専門分野の範囲外の色々なジャンルの音楽実技または音楽スタッフワークを現場で体験し知見を得る	専門分野の範囲外の色々なジャンルの音楽実技または音楽スタッフワークを説明できる				到達目標Bについてさらなる努力が必要			
到達目標 C	学んだことを学校の実習や将来の現場で生かす複合的な視座を体得する	学んだことを学校の実習で生かす複合的な視座を体得する				到達目標Cについてさらなる努力が必要			
【教科書】 プリント資料									
【参考資料】 特になし									
【成績の評価方法・評価基準】 ルーブリックに基づく評価を行う。評価方法は主に定期試験で行う。また補足的にレポート評価を行う場合もある。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		マルチメジャー			年度	2024
英語表記		Multi-major			学期	通年
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	第一課題 課題発表 概要説明	課題の趣旨を理解	1 マルチメジャーとは	マルチメジャーの意義がわかる	3	
	2 課題発表		第一課題の意義がわかる			
	3 課題理解		課題の内容を理解できる			
2	第一課題 実践	現場体験	1 現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
	2 課題の構造化		課題を分解し、構造化する			
	3 課題練習		構造化した課題について練習を行う			
3	実践	現場体験	1 現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2 課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3 課題練習	構造化した課題について練習を行う		
4	実践	現場体験	1 現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2 課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3 課題練習	構造化した課題について練習を行う		
5	実践	現場体験	1 現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2 課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3 課題練習	構造化した課題について練習を行う		
6	実践	現場体験	1 現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2 課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3 課題練習	構造化した課題について練習を行う		
7	まとめ	応用方法を学ぶ	1 現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2 構造化した課題の合成	分解した課題をまとめる		
			3 課題発表	第一課題をまとめ、発表する		
8	第二課題 課題発表 概要説明	課題の趣旨を理解	1 第一課題の振り返り	第一課題について振り返りができる	3	
	2 課題発表		第二課題の意義がわかる			
	3 課題理解		課題の内容を理解できる			
9	実践	現場体験	1 現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2 課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3 課題練習	構造化した課題について練習を行う		
10	実践	現場体験	1 現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2 課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3 課題練習	構造化した課題について練習を行う		
11	実践	現場体験	1 現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2 課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3 課題練習	構造化した課題について練習を行う		
12	実践	現場体験	1 現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2 課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3 課題練習	構造化した課題について練習を行う		
13	実践	現場体験	1 現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2 課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3 課題練習	構造化した課題について練習を行う		
14	まとめ	応用方法を学ぶ	1 現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2 構造化した課題の合成	分解した課題をまとめる		
			3 課題発表	第二課題をまとめ、発表する		
15	総合復習	復習の実践	1 第一課題の振り返り	第一課題を自分のものにできる	3	
			2 第二課題の振り返り	第二課題を自分のものにできる		
			3 分野横断の可能性	分野横断技術を体得することへの可能性を知る		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等